

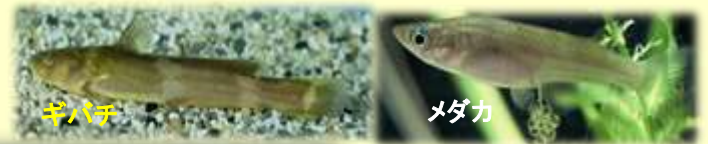
シナイモツゴ郷の会で一緒に活動しませんか

活動の紹介と入会のご案内



シナイモツゴ
4~7月の産卵期には全身真っ黒、目が鋭くなるなど変身します。

地域のゆたかな自然を守るため、さまざまな活動をしています。
会員は興味のある活動へ都合の良い日に自由に参加しています。
地域の人や子ども達と楽しみながら活動しています。



ギバチ

メダカ



ゼニタナゴ

全国に10数か所にしか生息しないゼニタナゴ、かわいらしいメダカやギバチも守っています。

◇シナイモツゴを守り増やそう

シナイモツゴ

宮城の地名(品井沼)の地名が付いた唯一の魚です。
全国的に減少、放置すれば絶滅する可能性大です。



体長8cm前後、大好きなエサはミジンコ、受口で水底のエサも食べます。



水面の植木鉢に好んで産卵します。1個に1万粒産卵。



6月に繁殖池に植木鉢を設置、産付けられた鉢を里親小学校へ収容します。



上：里親小学校の子どもたちが卵から飼育します。下：ふ化直前の卵



里親小学校の子どもたちが1年間育て、地域の人たちと共に安全なため池へ放流します。

◇身近な自然を学び活用しよう



H25年移動研修会
大崎市化女沼



H26年移動研修会
松島寒風沢島

鹿島台には宮城県で最大だった品井沼があったため、まだ多くの自然が残されています。最近、外で活動することが少なくなって、地域の自然に接する機会が減少しています。移動研修会では県内各地のゆたかな自然を見学します。また、積極的な活用をめざし、地域特産品の生産販売を支援しています。



シナイモツゴ郷の米認証ラベルを発行しています。



品井沼ヒシや又カエビを活用しています。

◇地域とともに活動しよう



毎年、地域の人たちとため池のブラックバスを退治しています。



みんなで生き物調査をしています。小川でたくさん生き物と会えます。



秋にはシナイモツゴ郷の米の収穫祭で自然の恵みを実感します。

◇子どもたちの心を育む活動に参加しよう



●県内5つの里親小学校にシナイモツゴを卵から育ててもらっています。当会のインストラクターが飼育を手伝いながら自然の大切さや取り組みを説明しています。

●年数回開催する生き物観察会、収穫祭、文化祭などで、子供たちが生き物と楽しく触れ合う場を提供しています。

●子どもたちは豊かな自然に触れて大満足です。



◇ゼニタナゴを増やそう 全国に10数か所しか生息しない最も絶滅が危惧される希少種です。



産卵期の雄：胸元がピンクになります。



産卵期の雌：腹から産卵管が伸び秋に二枚貝へ卵を産み付けます。



9～10月に二枚貝へ卵を産み付け、鰓の中でふ化します（矢印）。仔魚は安全な貝の体内で厳しい冬を過ごします。



稚魚は5月に貝から脱出して水面に浮上しミジンコなどを食べます。

安全なため池へ稚魚を放流するため池を活用した人工繁殖技術を開発しました。

◇外来種から豊かな自然を守ろう ブラックバスとアメリカザリガニを退治しています。



オオクチバスため池などで繁殖すると小魚は全滅します。



オオクチバスの産卵を阻止するため二段式人工産卵床を開発しました。5～6月、伊豆沼バス・バスターズに参加しています。



アメリカザリガニは水草や貝を食べてしまいます。

カゴ網で大量捕獲できます。



技術研修会を開催しザリガニ駆除の新技术を紹介しています。2014年6月鹿島台ため池



池を干してバスを退治しています。



アメリカザリガニにかじられて縁がギザギザになった二枚貝



餌はドッグフードが有効です。

◇だれでもできる自然再生技術の開発 プロジェクトに参加しよう。

プロジェクトチーム「品井沼生き物研究会」が中心になってだれでもできる自然再生技術を開発中です。



多様な技術開発と取り組み、成果を現場で活用、全国的に高い評価が得られています。



ブラックバス二段式人工産卵床を開発。省力化と全数回収を可能にしました。



シナイモツゴ産卵ポット、簡単に卵の確保が可能になった。



ため池を活用してゼニタナゴ野生生息場の増大を実現。



ペットボトルで植物プランクトンを簡単培養。シナイモツゴ稚魚の生残率大幅向上に成功。



ヒシの試験栽培や自生ヒシの利用により、品井沼ヒシ食文化の継承と取り組んでいます。

◇その他の活動

- ①総会、定例会
総会で年間計画、定例会で毎月の活動内容を検討
- ②シンポジウム
全国シンポジウム（東京・仙台など）、ミニシンポジウム（大崎市鹿島台）
- ③出版：新刊本を発行し啓発と技術普及に貢献。
- ④表彰：農林水産大臣賞、明日への環境賞、水環境賞他を受賞



水辺の自然再生全国シンポジウム 東京開催2014年11月



シンポジウム講演などをまとめて新刊本を刊行。自然再生の最新知見と実践的な新技术を紹介。左：2007年 右：2009年



ミニシンポジウム・総会 大崎市鹿島台2015年2月



定例会・理事会 鹿島台公民館 毎月第3土曜日開催



水環境賞（水環境学会）の受賞：表彰状を手にする二宮現理事長 2010年



農林水産大臣賞を受賞：表彰式の安住初代理事長 2008年1月、同年に明日への環境賞（朝日新聞）を受賞

◇入会案内

随時入会を受け付けています。

・2種類の会員区分があります。

①正会員（イベント参加+議決権：年会費2,000円）

②賛助会員（イベント参加、年会費：1,000円）

・手続きなど詳しい内容について、下記まで問合せいただければ資料をお送りします。

〒989-4102 宮城県大崎市鹿島台小谷地504-1 鹿島台公民館内

TEL 090-4043-3692（高橋） E-mail shinaimotsugo93ks@ybb.ne.jp

